

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
発達作業療法評価学演習		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡辺 俊太郎	C318	csehrrou00032	金曜日 10:40～11:10		
授業の目的・概要	発達障害領域の対象は精神障害から身体障害と幅が広く、発達学的な視点がベースとなっている。よって、評価内容も多岐にわたるため、幅広い評価方法について講義する。発達障害領域における観察と検査法を学ぶことにより、対象児を多面的に理解する。次いで対象児によって必要な検査法を選択できることを目的とする。検査の目的、解釈についても理解する。				
学習上の助言	子どもを評価する基準は人間発達学で学んだ正常発達・反射と反応の知識と臨床応用である。人間発達学で学んだ知識を復習して授業に臨んでほしい。				
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 作業療法評価学 監修：矢谷令子 / 医学書院 / 2017 イラストで分かる発達障害の作業療法 / 監修：上杉雅之 医歯薬出版株式会社 / 2017 「教科書2冊指定」				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	子ども及びその保護者とのかかわり方について理解し、説明できる			HSU(1)、(2)、OT(1)、(2)	
②	子どもの特性に応じたアセスメントを抽出することができる			HSU(2)、OT(2)	
③	発達全般を評価する検査について理解し、説明できる			HSU(2)、OT(2)	
④	支援計画を立案する際に用いる質的評価について理解し、説明できる			HSU(2)、OT(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	発達障害とは何か？ 発達過程作業療法の役割について学ぶ。	講義、演習	教科書 (作業療法評価学) を読む p546-557。授業資料とともに復習する。		1
2	発達全般を評価する観察と検査について学ぶ。	講義、演習	教科書 (作業療法評価学) を読む p558-561。授業資料とともに復習する。		1
3	痙直型脳性まひ、アテトーゼ型脳性まひの特徴を学ぶ	講義、演習	教科書 (発達障害の作業療法) を読む p103-144。授業資料とともに復習する。		1
4	痙直型脳性まひ、アテトーゼ型脳性まひの評価について学ぶ。	講義、演習	教科書 (作業療法評価学) を読む p562-567。授業資料とともに復習する。		1
5	摂食の評価について学ぶ。	講義、演習	教科書 (発達障害の作業療法) を読む p57-60。授業資料とともに復習する。		1
6	ASD の特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。	講義、演習	教科書 (発達障害の作業療法) を読む p63-79。授業資料とともに復習する		1
7	ASD の特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。	講義、演習	教科書 (発達障害の作業療法) を読む p63-79。授業資料とともに復習する		1
8	ADHD の特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。	講義、演習	教科書 (発達障害の作業療法) を読む p81-89。授業資料とともに復習する。		1
9	LD の特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。	講義、演習	教科書 (発達障害の作業療法) を読む p91-101。授業資料とともに復習する。		1
10	感覚統合機能・感覚統合療法について学ぶ。	講義、演習	教科書 (作業療法評価学) を読む p568-574 を読む。授業資料とともに復習する。		1
11	感覚統合機能・感覚統合療法について学ぶ。	講義、演習	教科書 (作業療法評価学) を読む p568-574 を読む。授業資料とともに復習する。		1
12	視知覚・視覚認知の評価について学ぶ。	講義、演習	教科書 (作業療法評価学) を読む p575-578 を読む。授業資料とともに復習する。		1

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

13	知的障害、ダウン症の特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。	講義、演習	教科書（発達障害の作業療法）を読む p159-174。授業資料とともに復習する。	1
14	知能・認知機能の評価について学ぶ。	講義、演習	教科書（作業療法評価学）を読む p579-586 を読む。授業資料とともに復習する。	1
15	対象児に応じた支援のアセスメントを学ぶ。（まとめ）	講義、演習	1～15 回の授業を見直し、定期試験に向けて復習を行う。	1
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	0	0	0	0	50
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	10	50
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	定期試験を実施して評価する。発達分野における代表的な疾患の特性把握、評価、解釈、支援について問う。(50%)	試験問題および解答用紙の返却。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①	授業内で実施した各疾患の特徴と評価において、実技練習と小テストを実施する。授業で得た知識に対して、思考・創造・推論、表現する力、課題に取り組む姿勢・意欲、問題を発見・解決する力を評価の対象とする。(50%)	授業内にて得た知識の、臨床での応用方法について授業内で情報共有する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備考

担当教員：◎渡辺俊太郎

教員の実務経験：作業療法士として 10 年以上の臨床経験。

実践的授業の内容：臨床における最新情報とともに、その専門性を生かして学生に教授する。

大学構内での授業受講に際して、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。

問題がある場合は授業の参加を認めない。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によってシラバスの変更の可能性があります。